



バラ新品種「愛知1号」を開発

開発の背景・ニーズ

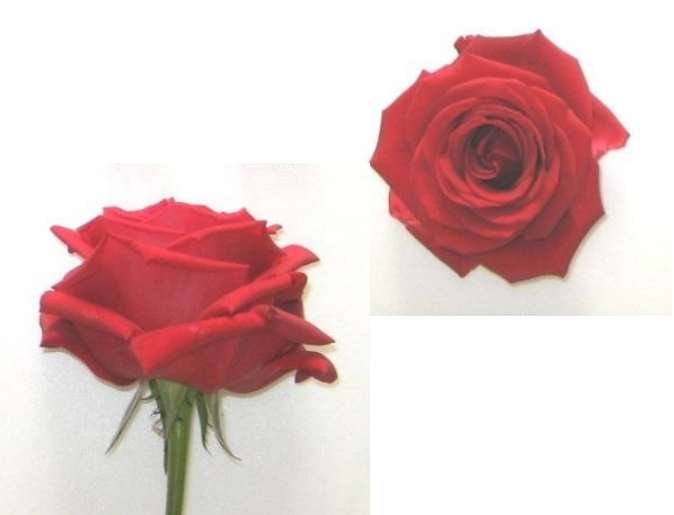
バラ生産者から、愛知県独自のスタンダード切り花品種の開発を求める強い要望がありました。これを受け、平成19年度に愛知県花き温室園芸組合連合会ばら部会内に組織された品種検討委員会の生産者と協力し、遺伝資源の収集を行いました。これらを用い、平成20年度から交雑育種により目標とする赤のスタンダード切り花品種の育成に取り組みました。

成果の内容

バラでは試験場で初めてとなる、スタンダードタイプの新品種「愛知1号」を開発しました。平成27年1月に育成を完了、6月に種苗法に基づく品種登録出願を行い、9月29日に公表されました。

新品種の特徴

- 最も需要が高い、赤色で剣弁高芯咲き（*）のスタンダードタイプの切り花品種であり、幅広い用途に利用できます。
* 花弁の先が尖り、中心が盛り上がった花形
- 花弁数が多くボリューム感があり、開花速度が緩やかなので、良好な花形を長く保つことができます。
- 茎に棘が少なく、販売店や消費者が扱いやすい品種です。



愛知県農業への貢献

生産者と協働で育成した愛知県独自のスタンダードタイプ切り花品種であり、生産者や市場のニーズに応えて、幅広い用途で用いられることにより、全国一のバラ産地の振興に貢献できるものと期待されます。